

1986・5・7

山々の樹々は
瑞々しい新緑の葉を装い
流れる風は
爽やかに
さきへの希望を運んでいる

額に流れる汗
土埃に
纏わりつかれて
澱んだ空気を振り払えずにいた

ひとの焼ける臭い
古釜の前で泣き崩れる声は
これから訪れる暗黒への
序章に過ぎなかった

2023・春・今
そう あの日が誕生のときだったのだ